OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Association between coffee consumption and all-sites cancer incidence and mortality
Author(s)	佐道, 准也
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/69390
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）　佐道　准也

論文審査担当者	（職）	氏　名
主　査	大阪大学教授	祖父江友孝
副　査	大阪大学教授	磯　博康
副　査	大阪大学教授	服部　聡

論文審査の結果の要旨

申請者の論文は、日本における地域住民を対象としたコホート研究において、コーヒー摂取頻度と全がん罹患／死亡の関連を評価した研究に関するものであり、結果としてコーヒー摂取頻度が高くなるにつれて全がん罹患／死亡のリスク低下がみとめられ、コーヒーに含まれる抗酸化物質や生理活性物質が重要な役割を果たしている可能性が示唆された。

日本人の死亡原因の2人に1人はがんであり、がん罹患／死亡に対する予防効果があるエビデンスは重要である。また、当該研究は、日本人の大規模コホート研究データを用いたものであり、一般化しやすく、価値がある。さらに、日本を含めて世界的にコーヒーは飲まれており、身近な食生活に関する結果は公衆衛生的な観点からみても重要な知見であると考えられる。

以上より、当該研究を主導した申請者は、博士（医学）の学位授与に値する、と判断した。

論　文　内　容　の　要　旨
Synopsis of Thesis

氏　名 Name	佐道　准也
論文題名 Title	Association between coffee consumption and all-sites cancer incidence and mortality (コーヒー摂取と全がん罹患/死亡との関連)

論文内容の要旨

〔目　的(Purpose)〕

コーヒーには多くの生物活性要素が含まれていて、カフェインとクロロゲン酸は抗炎症作用などを介して人体に良い影響をもたらすことが報告されている。過去のコホート研究やメタアナリシス研究において、コーヒー摂取と全がん死亡との関連は様々である。そこで、本研究では、コーヒー摂取と全がん罹患／死亡との関連について評価することを目的とした。

〔方法(Methods)〕

三府県コホートは、宮城県、愛知県、大阪府の地域住民を対象とした1980年代～2000年までに行われた前向きコホートであり、今回の解析対象は40-79歳のコーヒー摂取頻度のアンケート回答者（82,809人〔男性：39,685人、女性：43,124人〕）とした。コーヒー摂取カテゴリーは、全く飲まない、時々飲む、1-2杯/日、3-4杯/日、5杯以上/日とした。追跡期間は、それぞれの調査地域のベースライン調査から最大15年間であった。コーヒー摂取とアウトカムの関連の評価には、男女別に多変量コックス比例ハザードモデルを用いた。

〔成績(Results)〕

男性では411,341人年、女性では472,433人年の結果に対して、全がん罹患者は、男性では4,244人、女性では2,601人であった。また、全がん死亡者は、男性では3,021人、女性では1,635人であった。男女ともに、コーヒー摂取カテゴリーが増加するごとに、全がん罹患のリスクが有意に減少した。コーヒーを全く飲まない群に比べて、5杯以上/日飲む群における全がん罹患リスク（95％信頼区間）は、男性において0.74（0.62-0.88）と有意に減少し、女性においては、0.76（0.58-1.02）と減少する傾向にあった。全がん死亡リスクは。男女ともにコーヒー摂取頻度が高くなるごと有意に減少した（男性；P for trend <0.001、女性；P for trend=0.047）。コーヒーを全く飲まない群に比べて、5杯以上/日飲む群における全がん死亡リスク（95％信頼区間）は、男性において0.71（0.58-0.88）と有意に減少し、女性においては、0.77（0.54-1.10）と減少する傾向にあった。

〔総　括(Conclusion)〕

本集団において、コーヒーを摂取する頻度が増加するほど、全がん罹患／死亡のリスクは減少した。本研究結果からは日本人がコーヒーを飲むことでがん罹患に対して悪影響をもたらすことはなく、コーヒー摂取を積極的に促すことも考慮されるべきである。